

夏季の大会運営について〈熱中症対策〉

- 1) ベンチを含む十分なスペースにテント等を設置し、**日射を遮る**。
 - ※ 全選手/スタッフが同時に入り、かつ氷や飲料等を置けるスペース。
 - ※ スタジアム等に備え付けの屋根が透明のベンチは、日射を遮れず風通しも悪いため使用不可。
 - ※ **人工芝ピッチ**に屋根がない場合は、必ず日射を遮るテント等を設置する。

- 2) 審判員や運営スタッフ用、緊急対応用に、氷・スポーツドリンク・経口補水液を十分に準備する。

- 3) 熱中症対応が可能な**救急病院**を準備する。特に**夜間は宿直医**による対応の可否を確認する。

- 4) 飲水タイム(ウォーターブレイク)の準備をする。

- 5) 会場に**医師、看護師、BLS(一次救命処置)**資格保持者のいずれかを常駐させる。

- 6) 前後半1回ずつ、それぞれの半分の時間が経過した頃に**3分間のウォーターブレイク**を設け、熱ストレスのチェック、身体の冷却、水分補給を行う。7人制についてはハーフタイムの延長を考慮する。

- 7) 暑熱環境に応じて(WBGT値 “Wet Bulb Globe Temperature＝湿球黒球温度” などをもとに)大会主催者は以下を許可すること
 - ※ 日影にあるベンチに入り、休む。
 - ※ 氷・アイスパック等でカラダ(頸部・脇下・鼠径部)を冷やし、必要に応じて着替えをする。
 - ※ 水だけでなくスポーツドリンク等を飲む。

- 8) ロッカールームでのエアコンまたは扇風機の使用(または団扇)